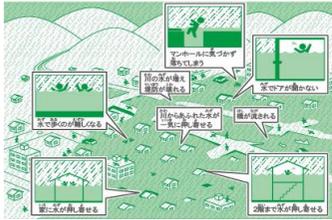
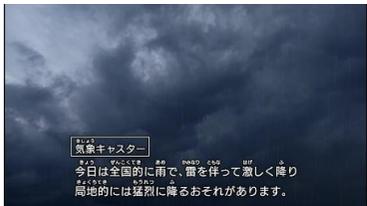


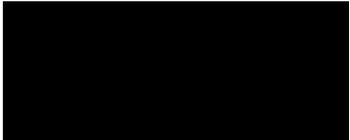
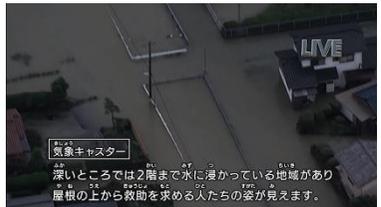
No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
1	0:00		タイトル画面 ／
<b>第1部</b>			
■導入			
○河川敷			
2	0:05		ナビゲーターとして気象予報士が登場。 ／ 気象予報士「皆様こんにちは。気象予報士の尾崎朋美です。」
3	0:10		荒川の風景 ／ 気象予報士「ここは、東京にある荒川の堤防です。」
4	0:15		堤防決壊のシミュレーション映像 ／ 気象予報士「もし大雨が降り続き、この堤防が壊れた場合、」
5	0:20		浸水シミュレーション映像 ／ 気象予報士「街はこのように大変な事態になるというシミュレーション結果があります。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
○学校			
6	0:25		<p>場面を学校に移し、ナビゲーターとしての児童が登場。シミュレーションの感想。</p> <p>／</p> <p>気象予報士「今日はこの2人の小学生と一緒に、みんなに水の災害、“水害”から身を守るために知ってほしいことを伝えるね。さっきの映像、どうだったかな？」</p> <p>男子児童「あんなになっちゃうんだね！こわいです！」</p> <p>女子児童「私も家が住む街でも、こういうことが起きるんじゃない？」</p>
7	0:45		<p>俯瞰イラストで様々な被害が出ることの紹介。</p> <p>／</p> <p>気象予報士「このイラストのように、大雨が長く降ることで堤防が壊れて、街が水びたしになり、家や車が流れてしまって、みんなの命が危険にさらされる状態になってしまうかもしれないの。」</p>
8	1:00		<p>気象予報士と児童との会話 →被災シーンの振り</p> <p>／</p> <p>気象予報士「こうした恐い被害を引き起こしかねない大雨が、最近になって増えているの。もし、こういうことになったら、自分の身を守ることができる？」</p> <p>女子児童「うーん、わからないけど、学校の先生やお父さんお母さんが一緒なら、どうすればいいか教えてくださいと思います。」</p> <p>気象予報士「そうだね、大人の人と一緒にいるときは、大人の人たちと逃げてね。でもみんながひとりきりの時もあるよね？そんなときはどうする？」</p> <p>男子児童「は！ひとりの時だとどうすればいいかわかりません！」</p> <p>気象予報士「だから<b>いざという時、みんなが被害にあわないように、自分の身を自分で守るために大事なことを、この映像で伝えたいの。</b>」</p> <p>女子児童「わかりました。(カメラ視線で)みんなでしっかり勉強しましょう。」</p> <p>気象予報士「まずは大雨が降り続いた時、どんなことが起こる可能性があるのか、この映像を見てみましょう。」</p>

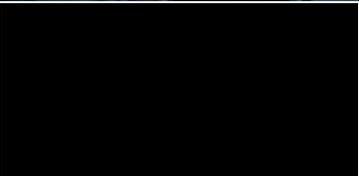
No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
■被災シーン			
被災シーン1：水圧でドアが開かない			
○一軒家			
9	2:00		一軒家外観（まだ雨は降っていないが暗い曇り） ／
10	2:05		自分で鍵を開けて（両親が仕事で不在の）家に帰宅した子どもA（佐藤 優太（ゆうた）：心配性な性格の設定）と、その友達の子どもB（鈴木 大翔（ひろと）：わんぱくな性格の設定）。 ／ 子どもB「おじゃましまーす。」
11	2:10		1階で携帯ゲームをし始めようとする。すると雨が降り始める。 ／ 子どもA「早くやろうぜ。」 子どもB「うん、やろうやろう。」 子どもA「（窓の外の雨に気づいて）あ、雨が降ってきたね。」 子どもB「これくらいなら大丈夫だよ。」
12	2:30		窓の外は雨、TV天気予報の声 ／ キャスター（尾崎朋美）「今日は全国的に雨で、雷を伴って激しく降り、局的には猛烈に降るおそれがあります。夜遅くまで活発な雨雲がかかる可能性があり、土砂災害や低い土地の浸水、川の増水や氾濫に警戒・注意をして下さい。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
13	2:40		<p>子どもBが帰宅。</p> <p>／</p> <p>子どもA「外の雨、強くなってきたね。お父さんとお母さんは、ここには小さい頃から住んでいて、これまで水害に遭ったことはないって言ってたけど…。」</p> <p>子どもB「なら大丈夫だな！」</p> <p>子どもA「でも学校で先生が水害は恐いって言ってたような…でもどうしたら良いって言ってたっけ？。とにかく心配だから早く家に帰ったほうがいいんじゃない？親も心配してるよ。」</p> <p>子どもB「そうか？大丈夫だと思うけど、ま、時間も遅くなってきたし、もう帰るよ。」</p> <p>子どもA「じゃあ、気を付けてね。」</p>
14	3:30	 <small>(強い雨で川の水がどんどん増えてきています)</small>	<p>強い雨、河川水位が高くなっている。</p> <p>／</p>
15	3:35		<p>子どもA、窓の外を見ながら</p> <p>／</p> <p>子どもA心の声「ヒロトくん (Bくん) は大丈夫かなあ。」</p>
16	3:40	 <small>気象キャスター 大雨の影響により、複数の河川で『はん濫危険水位』を超えています。</small>	<p>子どもA、ゲームを止めてニュースで気象情報を見る。状況が悪く、母の帰りを心配する。</p> <p>／</p> <p>キャスター (尾崎朋美) 「大雨の影響により、複数の河川で『はん濫危険水位』を超えています。明日未明まで激しい雨が降る恐れがあり、今後も厳重な警戒が必要です。」</p> <p>子どもA心の声「大変だ！川の水が溢れそう。こんな時どうしたらいいのかなあ…。お母さん、早く帰ってこないかなあ。」</p>

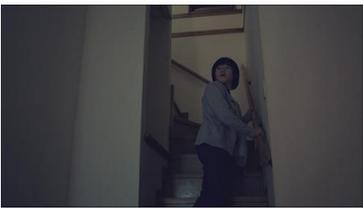
No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
□	17 4:05	 <small>ゆうたくんのお母さんが仕事場で心配しています</small>	職場の母親A、窓の外が気になり子どもAを心配しているが、忙しくて子どもAに電話する時間がない。 ／
□	18 4:15		進む時計の針 ／
□	19 4:20		大きな音がして窓の外を見る子どもA、驚く ／ 子どもA「わっ」
□	20 4:25	 <small>家の周りが水に浸かってしまいました</small>	浸水する家々 ／
□	21 4:30	 <small>玄関のドアをおしても開きません</small>	外へ逃げようとドアを開けようとするが、水圧で開かない。 ／ 子どもA「あ、開かない！わあ、水が入ってきた！」 子どもA心の声「こんなとき、どうすればいいって習ったっけ？そうだ、2階へ逃げるんだ！」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
被災シーン2：家の2階まで浸水（被災シーン1からの続き）			
22	4:45		慌てて2階へ上がる子どもA。1階から流れ込む水による破壊音が聞こえる。 ／ 子どもA「大変だ！」
23	4:50		少し後にヘリコプターのプロペラ音 ／
24	4:50		上空からの水害映像＋実況ニュース風ナレーション ／ キャスター（尾崎朋美）「大雨で河川が氾濫し、浸水被害が発生しています。 <b>深いところでは2階まで水に浸かっている地域があり</b> 、屋根の上から救助を求め る人たちの姿が見えます！」
被災シーン3：膝より上の水深で歩けない ○家への帰り道			
25	5:00		強い雨が降っている。 ／
26	5:05		雨の中を歩く子どもB。突然雨が猛烈に強くなり、恐怖を感じる。 ／ 子どもB心の声「すごい雨だ。お母さんが心配してる、早く帰らなきゃ。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
27	5:10	 <small>(ひろとくんのお母さんが家で心配しています)</small>	家で子どもBの帰りを待つ母親B、窓の外を見ながら心配そうにしている。 ／
28	5:15		足下の水たまりの水位が上がっていく (靴の下→くるぶし→すね) ※人工的に貯めた泥水の中で足下を撮影 ／
29	5:20		歩きにくそうに歩く子どもB (足元映さず水の音だけ)。 ／ <u>子どもB「足下が見えなくて、歩きにくいなあ」</u>
被災シーン4：浸水すると足下が見えなくなる (被災シーン3からの続き)			
30	5:20		角を曲がるといつも通っている道が浸水で違う風景になっていることに驚く。 ／ <u>子どもB心の声「わっ！」</u>
31	5:25		浸水している道路 ／

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
□ 32	5:25		いつもの風景を回想として挿入。水路があったことが頭によぎるが、近道なので進んでしまう / 子どもB心の声「この道、水路があった気がするけど大丈夫かな。。ま、いつも通っている道だし、遠回りして遅くなるといけないから、この道で帰ろう。」
□ 33	5:30		(回想) 通常時の道路 /
□ 34	5:40		歩きにくそうに歩く子どもB (足元映さず水の音だけ)、わっと声を上げ、 <b>水路に落ちる。</b> / 子どもB「もう少し、もう少しで家に着く。もう少し、もう少し…わっ！」
□ 35	5:50		(長い黒フェード) 水中の「ごぼごぼ」という音。 /

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
<b>第2部</b>			
<b>■第1部の振り返りとポイントへの振り</b>			
○学校			
36	5:50		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>男子児童「<u>大変なことになっちゃったね。どうすれば良かったのかなあ。</u>」</p> <p>女子児童「学校の授業で、水が高いところから低いところに流れるって習ったよね。だから、自分が置かれた状況によって行動の仕方が変わるんじゃない？」</p> <p>男子児童「そうかあ、難しいなあ。」</p> <p>気象予報士「そうね、自分が洪水に遭いやすい低い場所にいるかいないかで、どのように行動すれば良いかが変わるわ。そして、避難するときには、いつもの道でも思わぬ危険があることを理解して、ちゃんと準備をしておく必要があるの。」</p> <p><u>近くに家の人や大人の人がいるときは、その人達と一緒に行動した方が良いけど、子ども達だけのときにも水害は襲ってくるの。だから、みんなに覚えてもらいたい大事なポイントがあるの。」</u></p>
37	6:45		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>気象予報士「もちろんよ。<u>大事なポイントは3つ</u>（三本指のジェスチャー）。まず一つ目は、『<u>身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと</u>』二つ目は、『<u>浸水が始まる前に逃げるこ</u><u>と</u>』、三つ目は、『<u>安全に避難する方法を知っておくこと</u>』。」</p> <p>男子児童「なんか、できそうな気がします！」</p> <p>女子児童「ほんとに調子いいんだから。。3つのポイントについて、詳しく教えてください。」</p> <p>気象予報士「はい、ではその3つのポイントについて、解説するね。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
■ポイント			
ポイント1：身の回りの危険と、イザという時の行動について普段からお家の人とよく話しておくこと			
38	7:15		サブタイトル ／ 気象予報士「ポイント1 身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと」
○一軒家			
39	7:20		○一軒家 ・慌てて2階へ上がる子どもA ・1階からは流れ込む水による破壊音が聞こえてくる
○学校			
40	7:35		気象予報士と児童との会話 ／ 男子児童「家にいても被害に遭うことがあるんだね。」 気象予報士「そうね。みんなも知っていると思うけど、水は高いところから、低いところに流れるよね。大雨で地面に降った水も同じで、低いところに流れて、洪水を引き起こすの。だから、 <b>自分の家や通学路、よく出かけるところが低い土地で洪水に遭いやすい場所じゃないかを、知っておくと良いよね。</b> 」 女子児童「そうですね。先に危ない場所を知っておくと安心ですね。」 男子児童「でも、僕の家が洪水に遭いやすい場所かどうかなんて、どうやって調べたらいいんですか？」 気象予報士「川が氾濫した時に、どれくらいの深さまで水に浸るのかを示したハザードマップというものがあるの。(ハザードマップの紙を見せて)二人はこんな地図をお家で見たことはあるかな？」 女子児童、男子児童「うーん、見たことないかも…」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
41	8:30		<p>ハザードマップを表示させながら</p> <p>／</p> <p>気象予報士「ハザードマップはこのように、浸水する深さによって地図に塗られている色が分かれているの。また、避難所も載っているからお家から近い避難所も確認できるわ。」</p>
42	8:50		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>気象予報士「自分が住んでいる地域のハザードマップは、みんなの住んでいる市町村の役場で手に入れることができるけど、学校や家にパソコンがあるなら、『ハザードマップポータルサイト』を使って簡単に調べられるわ。お家の人がスマートフォンを持っていれば、スマートフォンでも調べることができるよ。」</p> <p>男子児童「へえーそうなんだあ。」</p> <p>気象予報士「じゃあ、『ハザードマップポータルサイト』の使い方を説明する</p>
43	9:10		<p>ハザードマップポータルサイトのトップページから操作を始め、浸水情報の表示方法・情報の見方をWEB画面上で説明し、各情報を見ることでどういうことが判断できるかわかるような説明を加える。</p> <p>／</p> <p>気象予報士「『<b>ハザードマップポータルサイト</b>』の『<b>重ねるハザードマップ</b>』から『<b>洪水</b>』を選びます。地図を拡大し、上下左右に動かすことで、自分の家がある場所を見ることができます。自分の家は、水に浸かりやすい場所ではないでしょうか。家の2階など、安全だと思っている避難場所が実は危険だったということもありますので、お家の人と一緒によく確認しましょう。そして、安全な避難場所はどこなのか、お家の人とよく確認しておきましょう。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
44	9:40		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>女子児童「そうか、さっきの場面でも、自分たちのいる場所が洪水に遭いやすいのか、洪水になったときにはどのくらいの深さになるのかを普段から知っておけば、先に避難することができたんだね。」</p> <p>気象予報士「そうね。もし自分で調べるのが難しければ、家の人や先生に教えてもらおうといいわね。」</p> <p>男子児童「(スマホを見ながら) 僕の家はどのくらいの深さかな。げっ、けっこう深いかも。」</p> <p>女子児童「気を付けないとね。」</p> <p>気象予報士「あとは、どこが安全な避難場所なのかを合わせてお家の人と確認しておいて、いざというときにどこに行けばいいのかもお家の人と話して決めておくことも大事ね。」</p> <p>気象予報士「それではポイント1を振り返ってみましょう。」</p>
○ポイント1まとめ			
45	10:15		<p>まとめのテキスト表示</p> <p>／</p> <p>気象予報士「ポイント1『身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと』のまとめです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水は高いところから、低いところに流れます。</li> <li>・自分の家や通学路、よく出かけるところが低い土地で洪水に遭いやすい場所ではないかを普段からお家の人と調べておきましょう。</li> <li>・洪水に遭いやすい場所は、「ハザードマップポータルサイト」を使って調べることができます。</li> <li>・身の回りの危険と合わせて、安全な避難場所もお家の人と確認しておくなど、イザというときどこに避難するかも普段からお家の人と話しておきましょう。</li> </ul>

No	TIME (目安)	画角	動き/セリフ
ポイント2：浸水が始まる前に、早めに逃げることに			
46	10:25		サブタイトル ／ 気象予報士「ポイント2 浸水が始まる前に逃げることに」
47	10:30		○一軒家 ・逃げようとドアを開けようとするが、水圧で開かない ○家への帰り道 ・(雨CG) 歩きにくそうに歩く子どもB (足元映さず水の音だけ)。
○学校			
48	10:35		気象予報士と児童との会話 ／ 男子児童「ドアが開かなくなることがあるんだあ。怖いね。」
49	10:40		水圧でドアが開かない実験映像 ／ 気象予報士「(実験映像を再生) そうだね。この実験映像のように、ドアの外側に30cm水が溜まると、水の力でドアが開かなくなるわ。しかも、お年寄り・子ども全員がドアを開けることができたのは10cmまでだったの。」 女子児童「そうなると逃げようと思っても逃げられないから、 <b>早く逃げる判断をしないとイケないね。</b> 」 気象予報士「そうだね。(実験映像を終了)」

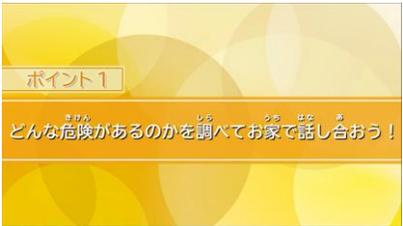
No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
50	11:15		<p>道路が水に浸かっていると歩きにくい実験映像</p> <p>男子児童「もし外に出られても、水の中ではあんなに歩きにくいなら、避難するのが難しいね。」</p> <p>気象予報士「(実験映像を再生) そうだね。この実験映像のように、道路が水に浸かっていると歩きにくいから、浸水が始まる前に早めに避難することはとても大事なの。」</p> <p>女子児童「はい、よく覚えておきます。」</p>
51	12:00		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>男子児童「避難するのが遅れると、大変なことになるんだね。でも、家の人がないときには家で待っていたらだめなの？」</p> <p>気象予報士「待っているだけではだめね。水害が発生しそうか情報を集めて判断し、どう行動するのか、普段から家の人と話して決めておくことが大事な。だからまずは、水害が発生しそうか、判断するための情報を得ることが必要になるわ。」</p> <p>女子児童「そうなんだあ。じゃあ、何をどうやって調べればいいんですか？」</p> <p>気象予報士「大雨が降りそうときや、降り続けているときには、近くの川の水位が高くなっていないかや、これからも強い雨が降り続くのかを調べる必要があるわ。もちろん、近くの川の様子を見に行くなんて危ないことは、絶対してはいけません。」</p> <p>川の水位は、パソコンやスマートフォンで『川の防災情報』を見て調べることができるの。そして今後も強い雨が降り続くかどうかは、パソコンだと『高解像度降雨ナウキャスト』、テレビだと『NHKなどのデータ放送』で調べることができるわ。」</p> <p>男子児童「いろいろあるんですね。使い方を知りたいです。」</p> <p>気象予報士「大丈夫、まずは『川の防災情報』から説明させてあげよう。」</p>
52	12:45		<p>『川の防災情報』のトップページから、河川水位を表示するまでの操作方法、情報の見方をWEB画面上で説明し、各情報を見ることでどういうことが判断できかわかるような説明を加える。</p> <p>象予報士「『川の防災情報』では、みんなの近くを流れる川の現在の水位をすることができます。川の水位には、(水位の線を光らせて強調)「はん濫注水位」「避難判断水位」「はん濫危険水位」があり、この水位によって、い避難を始めるかを判断できます。もし、現在の水位が『避難判断水位』を超た場合、避難の準備に取り掛かりましょう。そして『はん濫危険水位』を越たら場合、危険な状況です。すぐに避難を開始しましょう。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
53	13:25		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>女子児童「これを見れば、川の様子を見に行くなんて危ないことをせずに、川の様子を知ることができるのね。」</p> <p>気象予報士「そうなの。操作方法や言葉が難しい場合は、家の人や先生と一緒に見て下さいね。」</p> <p>男子児童「はい、わかりました。強い雨がこれからも降り続くかを調べるには、どうしたらいいんですか？」</p> <p>気象予報士「それじゃあ、『高解像度降雨ナウキャスト』と『NHKのデータ放送』を説明するね。」</p>
54	13:50	 <p>これからの雨の降り方を確認することができるよ</p>	<p>高解像度降水ナウキャストトップページから、レーダー雨量予報の表示方法、情報の見方をWEB画面上で説明</p> <p>／</p> <p>気象予報士「『<b>高解像度降水ナウキャスト</b>』を使うと、現在の雨の強さに加え、このボタンをクリックすると、これからの雨の降り方を確認することができます。強い雨が長く続くようであれば避難の準備をしましょう。」</p>
55	13:05	 <p>注意報・警報の状況、今後1時間ごとの天気予報が見られるよ</p>	<p>NHKのデータ放送トップページから、1時間ごとの天気予報の表示方法、メッシュ予報の表示方法を説明</p> <p>／</p> <p>気象予報士「『NHKのデータ放送』を使うと、現在の注意報・警報の状況や、今後1時間ごとの天気予報を見ることができます。強い雨が長く続くようであれば避難の準備をしましょう。」</p>
56	14:20		<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>男子児童「地デジのデータ放送なら僕も見たことがあるよ。簡単にみられるね。」</p> <p>女子児童「これからの雨の降り方がわかれば、そのまま家にいていいのか、早く避難したほうが良いのかが、よくわかるね。」</p> <p>気象予報士「そうだね。操作方法や言葉が難しい場合は、家の人や先生と一緒に見て下さいね。」</p> <p>男子・女子児童「はい、わかりました。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
57	14:45		<b>気象予報士と児童との会話</b> / 気象予報士「(イラスト表示)このような情報を得て、もしひとりの時で、いざという時にはどうするのか、家の人と話し合っておこうね。具体的には、 ・水位や今後の雨の降り方、避難勧告や避難指示、避難命令など、何を見て避難した方が良いと判断するのか。 ・どうしても逃げなければいけないとき、近くに頼れる大人がいないか。頼れる公的な機関はないか。 ・どうしてもひとりで逃げなければいけないとき、どこに避難するのか。お家の2階は安全か。近くに頑丈な建物があるか。 ・お家の人と一緒にない場合、連絡をとる手段はあるのか。連絡が取れない場合、どこで合流することにするのか。 などを、普段から話し合っておく必要があるわね。(イラスト消す) それでは、ポイント2を振り返ってみましょう。」
<b>ポイント2まとめ</b>			
58	15:00		<b>まとめのテキスト表示</b> / 気象予報士「ポイント2『浸水が始まる前に逃げる』のまとめです。 ・ドアの外側に水が溜まると、水の力でドアが開かなくなり、外に逃げられなくなることがあります。 ・水の高さが膝下までであると歩きにくくなり、避難しにくくなります。 ・子どもしか居なかった場合でも、水害が発生しそうかを情報を集めて判断し、どう行動するのか、普段から家の人と話して決めておくことが大事です。 ・水害が発生しそうか、判断するための情報を得ることが必要です。 ・川の水位は『川の防災情報』、今後も強い雨が降り続くかは『高解像度降水ナウキャスト』、『NHKのデータ放送』で調べることができます。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
ポイント3：安全に避難する方法を知っておくこと			
59	15:40		サブタイトル ／ 気象予報士「ポイント3 安全に避難する方法を知っておくこと」
60	15:45		○学校帰りの通学路 ・歩みにくそうに歩く子どもB、わっと声を上げ、下へフレームアウト。
○学校			
61	15:55		気象予報士と児童との会話 ／ 男子児童「浸水した水の中を歩くのは危ないんですね。」 気象予報士「 <u>そうだね。だから、さっき話したとおり浸水する前に避難することが一番大事なの。それでも避難する前に浸水が起きてしまったときにはどんなことに注意すればよいか？</u> 」 男子児童「うーん」 気象予報士「さっきの実験映像の通り、水の高さが膝下まであるときには、大人でも歩くのが大変だし・・・」
62	16:15		マンホールに落ちるイラストを表示。 ／ 気象予報士「マンホールや水路は、水が道路にあふれると見えなくなってしまうの。だから避難の途中で、ふたの外れたマンホールや水路に落ちてけがをしたり、流されてしまったりする人がいるのよ。」 女子児童「そんなことがあるんだあ。怖いね。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
63	16:45		<p>気象予報士と児童との会話＋イラスト&amp;テロップによる解説</p> <p>／</p> <p>気象予報士「だから、例えば大人の人と一緒に、次のことに気をつけてね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『(画面上にテロップ) <b>避難ルート上の危険な場所を確認しておく</b>』普段通る時にも確認できるよね。</li> <li>・『(画面上にテロップ) <b>水中には、見えない危険が潜んでいることを忘れない</b>』マンホールや水路に落ちることがあるよ。</li> <li>・『(画面上にテロップ) <b>道路が水に浸かっていたら、無理せず高いところで救助を待ちましょう</b>』少しでも高いところが安全ね。</li> <li>・『(画面上にテロップ) (イラストを表示) <b>どうしても道路が水に浸かっている中を歩かないといけない時は、長い棒などを使って、歩く先を確認しながら歩きましょう</b>』傘や杖も代わりになるね。(イラスト消す)」</li> </ul> <p>男子児童「もし外に出かけてて、外出先の方が安全な場合もありますよね？そんなときは家に電話して、そこで待たせてもらっても良いんですか？」</p> <p>気象予報士「そうだね。どのように行動すれば安全か、わかってきたみたいだね。それでは、ポイント3を振り返ってみましょう。」</p>
ポイント3まとめ			
64	17:20		<p>まとめのテキスト表示</p> <p>／</p> <p>気象予報士「ポイント3『安全に避難する方法を知っておくこと』のまとめです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マンホールや水路などの浸水時に危険な場所を、普段道を通るときに確認しておき、避難時には避けて通りましょう。</li> <li>・道路が水に浸かっていたら、無理せず高いところで救助を待ちましょう。</li> <li>・どうしても道路が水に浸かっている中を歩かないといけない時は、長い棒などを使って、歩く先を確認しながら歩きましょう。</li> </ul>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
<b>第3部</b>			
<b>■ 成功事例</b>			
65	17:40		ポイントを受けたコメントと、成功事例映像の振り ／ 気象予報士「水害から身を守るための3つのポイント、よくわかったかな？」 女子児童「はい！わかりました。」 男子生徒「これで大丈夫だね！」 気象予報士「それでは、この3つのポイントをどのように実践すれば、水害から身を守れるのか、みんなで見てみましょう。」
ポイント1：身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと			
66	18:00		サブタイトル ／ 気象予報士ナレーション「ポイント1、身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと」
67	18:05		一軒家外観（まだ雨は降っていないが暗い曇り） ／
68	18:10		自分で鍵を開けて（両親が仕事で不在の）家に帰宅した子どもA（佐藤 優太（ゆうた）：心配性な性格の設定）と、その友達の子どもB（鈴木 大翔（ひろと）：わんぱくな性格の設定）。 ／ 子どもB「おじゃましまーす。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
69	18:20		<p>1階で携帯ゲームをし始めようとする。すると雨が降り始める。子どもAは家族会議で話したことが頭をよぎって、子どもBに危険を伝える。</p> <p>子どもA「早くやろうぜ。」  子どもB「うん、やろうやろう。」  子どもA「(窓の外の雨に気づいて) あ、雨が降ってきたね。」  子どもB「これくらいなら大丈夫だよ。」  子どもA「うん! …でも、ちょっと待って。…今日は大雨になるってテレビで言ってたな…あつ」</p>
70	18:45		<p>家族会議の回想</p> <p>母親Aナレーション「  このハザードマップを見ると、うちがある場所は低い土地で、大雨が降り続いたら2階まで浸水する可能性があることがわかるわね。  避難勧告が出ていたらすぐに避難しようね。もしお父さんお母さんが仕事で家にいなかったら隣のおばさんにも声をかけて一緒に避難してね。  学校がある場所は安全だから、避難する場合は学校に行こうね。  でも、もし浸水が始まっていたり、暗かったりして学校まで行くのが危険に思ったら、近くの高台の公園に避難しようね。」</p>
71	19:20		<p>子どもA・子どもBの会話に戻って</p> <p>子どもA「…ってことを家族会議で話したんだ。ここは危ないから避難した方が正しいかもしれない。今ならまだ学校に避難できるよ。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
ポイント2：浸水が始まる前に逃げること			
72	19:30		サブタイトル ／ 気象予報士ナレーション「ポイント2、浸水が始まる前に逃げること」
73	19:35		パソコンで情報収集を続ける子どもA ／ 子どもB「こんな強い雨、そんなに続かないよ。」 子どもA「 <u>これからこの雨の降り方も調べられるんだ。</u> 『高解像度降水ナウキャスト』を見てみよう。…強い雨が続きそうだ。」 子どもB「すごいね、便利なツールがあるんだね。」 子どもA「パソコンがなくても、スマートフォンで簡単に見られるし、地デジ対応テレビでも、dボタンを押して気象情報を選べば、この場所の1時間ごとの天気予報が見られるんだ。」
74	20:10		危機感のない子どもBに対して、パソコンを開いて情報収集を始める子どもA ／ 子どもB「でも、避難しなくてもいいんじゃない？」 子どもA「 <u>これから危ない状況になりそうか、調べる方法があるんだ。</u> まずは『川の防災情報』を見てみよう。わ！『はん濫危険水位』を超えてる、避難勧告も出てるし、すぐに避難の準備をしたほうがいいね。」 子どもB「こんなに簡単に調べられるんだね〜。」
75	20:35		同じ場所で会話した後、黒フェード。 ／ 子どもB「避難って、僕たちだけで行くの？」 子どもA「避難する時には、隣のおばさんを頼るよう言われてるんだ。」 子どもB「そこまで決めてるんだね〜。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
ポイント3：安全に避難する方法を知っておくこと			
76	20:45		サブタイトル ／ 気象予報士ナレーション「ポイント3、安全に避難する方法を知っておくこと」
77	20:50		強い雨が降っている。 ／
78	20:55		隣の家のおばさんとカッパを着て避難している。まだ浸水は始まっていない。 子どもAとおばさんは傘を持っている。 ／ 子どもB「カッパを着ているのに、なんで傘を持ってるの？」 子どもA「 <u>もし道路が水に浸かって足下が見えなくなったら、マンホールや水路に落ちないように、こうやって地面を確認しながら進むといいんだ。</u> 」 子どもB「へえ～。」
79	21:10		水路がある道に差し掛かって ／ 子どもA「 <u>あ！この道の先には水路があって、もし浸水したら見えなくなって、落ちてしまう可能性があるから危ない！遠回りになるけど、水路が無い安全な道があるから、そっちを通ろう。</u> 」
80	21:30		避難している途中で ／ 子どもA「もし途中で身の危険を感じたら、無理して学校に行かず、この先の高台の公園に逃げるよう言われているんだ。今日は大丈夫そうだからそのまま学校に行こう」 おばさん「よく知ってるわね。えらいね。」

No	TIME (目安)	画角	動き／セリフ
81	21:50	 <p>学校の避難所でゆうたくんのお母さんと合流できました</p>	<p>教室の一角（避難所：床にブルーシートが敷かれ、段ボールが積んである）。子どもA、子どもB、隣のおばさんが床に座っている。そこに、子どもAの母親がやってくる。</p> <p>母親A「よかった～。ちゃんと決めていた通り避難できたのね。えらいね。」 （子どもBの母親に電話） 母親A「もしもし鈴木さん（Bさん）？今、うちのユウタ（A）とヒロトくん（Bくん）と一緒に学校に避難しているから、天気が落ち着いたら家まで送るわね。」 母親Bの声「よかった～ありがとう。」</p>
■まとめ			
○学校			
82	22:35	 <p>どんな危険があるのかを調べて話し合っておこう</p>	<p>気象予報士と児童との会話</p> <p>／</p> <p>気象予報士「水害から自分の身を守るためにはどうすればいいかを見てきたけど、よくわかったかな？」 男子児童「はい、わかりました。まずは、ハザードマップで自分がいる場所にどんな危険があるのかを調べて、お父さんやお母さんと、水害が起こりそうなきときにはどうするか、話し合っておこうと思います。」 女子児童「私も。あと、大雨が続いている時の情報収集の方法や、浸水が始まる前に逃げることも、お父さんやお母さん、兄弟に話したいと思います。」 男子児童「もし避難することになったら、水中の危険に注意すること、歩きにくい深さになったら無理せず高いところで救助を待つことも大切だって伝えなきゃね。」 女子児童「そうだね、さっそく家族会議しなきゃ。」 気象予報士「学校でも先生やクラスの友達と話しておくといいわね。」</p>
83	23:30		<p>気象予報士によるまとめ →終了</p> <p>／</p> <p>気象予報士「それでは最後に、今日の大事なポイント3つ（三本指のジェスチャー）をもう一度言うね。まず一つ目は、『身の回りの危険と、イザという時の行動について、普段からお家の人とよく話しておくこと』そのためには、家の人たちと普段から災害について話しておくことが大切よね。二つ目は、『浸水が始まる前に逃げること』、三つ目は、『安全に避難する方法を知っておくこと』。わかったかな？」 男子・女子児童「はい、わかりました。」</p>

No	TIME (目安)	画角	動き/セリフ
84	24:00		<p>エンドクレジット</p> <p>／</p>

□